



2018年3月9日 金曜日
(平成30年)

◎朝日学生新聞社

東京本社 〒104-8433 東京都中央区築地5-3-2
大阪支社 〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18
電話 03(3545)5223(広報) 06(6202)3893(大阪)
記事についてのお問い合わせは03(3545)5222(編集)

津波から逃げた「あの日」語りつぐ



2011年3月11日、東日本大震災が発生し、東京電力福島第一原子力発電所の事故が起きました。2万2千人以上が犠牲になった大災害から、もうすぐ7年がたちます。今日から3日間、東北の人たちの今と、そこから考えたいことについて伝えます。今日は震災の被害や経験を語りつぐとする人たちについてです。



東日本大震災では、沿岸の広い範囲を大津波がおそい、逃げおくれた大勢が流されてしまいました。

二度と悲劇をくり返さないために、震災を経験した人たちが、あの日のお出来事を、震災を知らない子どもたちや、被災地以外の人たちに語りつぐことが大切です。そこで「語り部」と呼ばれる人たちが、東北の被災地や全国で活動しています。先月下旬、被害の大きかった宮城県南三陸町に日本各地の語り部ら約400人が集まり、取り組みを紹介する「全国被災地語り部シンポジウム in 東北」がありました。

「語り部」全国で活動
町内のホテル観洋の副支配人、尾野守裕さんは、お客さんらに出来事や経験を語っています。町の市街地にある高野会館。15メートル以上の津波が何度もおそいました。建物は震災遺構として残っています。

「集まっていたお年寄りには、外に出ず、屋上に避難してもらい、ここでは3027人の命が救われました」と説明します。「去年7月、町にようやくスーパーマーケットができました。いつでも生ものが食べられるようになった」など、住民の一人として暮らしの変化や気持ちなども話します。

元田久美子さんは岩手県宮古市の田老地区で被災し、2012年から語り部活動をしています。震災のとき、海に近い自宅には戻らず避難し助かりました。しかし祖母は亡くなりました。「戻っていたら助けられたかもと罪悪感も感じました。でも今は、生きていてよかったと思います。伝えていかなければならない」

元田さんらが始めた活動「学童防災」ではこれまで、13万9千人に語ったそうです。

お年寄りと屋上へ／戻らず内陸へ



語り部の案内で、300人以上が救われた高野会館屋上を見学する人たち。白下町、宮城県南三陸町

【東日本大震災】
2011年3月11日、東北地方の三陸沖でマグニチュード9.0の大地震が発生。最大震度7を観測し、巨大な津波によって岩手、宮城、福島の3県を中心に大きな被害が出ました。警察庁によると3月1日現在、死者1万5896人、行方不明者2539人。復興庁によると去年9月30日現在、震災関連死者数は3647人。家を流されるなどして応急仮設住宅に住む人は1月31日現在、上の3県で合わせて1万3564人います。



震災当時の写真も見せながら語り部をする尾野さん

音声を開けます
<http://www.asagaku.com/asashonews/index.html>

4歳の記憶や体験談 私も伝える
「災害が発生した時あわてないために、語り部さんの体験や思いを聞き、聞いたことを家族や大切な人と共有することが大切」と考えられています。「みんなに知ってもらいたい。私もいつか、こういうことがあったと教えらるる人になりたい」と話します。



佐藤ひま里さん(南三陸町立志津川小5年)

佐藤ひま里さん(南三陸町立志津川小5年)は、語り部の話を聞くことで災害を防げると考え、シンポジウムで自分の経験と考えを発表しました。当時4歳だった佐藤さんはその時、幼稚園にいら